

研究主題 「心豊かに地域の未来を担う生徒の育成」

～「考え、議論する道德」の実現～

秩父市立荒川中学校

1 研究主題の設定理由

埼玉県の西部に位置する本校は、豊かな自然に恵まれ祭事や地域行事も多く、「絆」を重視した教育活動を行っている。また、秩父市では学校教育推進プランにおいて、市の未来を担う人材の育成を目指し「豊かな人間力の育成」を重点目標に掲げている。しかし、現状として生徒を取り巻く環境は、地域での人間関係の希薄化、社会共生集団としての多様な価値観にふれる機会が少ないなど「豊かな人間力の育成」に向けて、課題が多く見られる。

そこで「考え、議論する」道德の研究を通じて多様な意見に触れる機会を設け、価値観を広げる環境を作る。また、地域や郷土とのつながりを重視した特色ある道德教育を展開し、体験活動や地域の教育資源を活用しながら道德的な課題に子供たちが向き合い主体的に解決する態度を育む。課題解決に向けた主体性・さらなる道德性の育成を目指して研究主題の設定とした。

2 研究の仮説

(1) 授業改善・研究の視点から

道德の指導方法や授業の工夫と改善を図り、「考え、議論する」道德を実践し、互いの価値観を認めれば心豊かに現代的課題（規範意識の育成・持続可能な社会）に対応できる生徒が育成できるであろう。

(2) 地域との連携の視点から

学校と地域（郷土）が連携して道德教育を推進していけば、自己を見つめ広い視野から人間としての生き方について考えを深め、道德的な判断力・心情・実践意欲と態度を育てることができるであろう。

3 研究の経過

時 期	内 容
4 月 22 日	第 1 回校内研修会 ○研究テーマの確認 ○研究組織、研究内容の検討
4 月 27 日	授業参観（全学年担任による道德公開授業） 1 年 A 組：「黒い弁当」（明日への扉 1 学研） 2 年 A 組：「キャッチボール」（明日への扉 2 学研） 3 年 A 組：「何だっていいんだあ」（彩の国の道德 中学校『自分を見つめて』） ※保護者会にて、家庭用「彩の国の道德」紹介
5 月 31 日	第 2 回校内研修会 ◎指導者による講義（*小中連携） 指導者：埼玉県教育局義務教育指導課 芳賀 一行 指導主事 テーマ：「心豊かに地域の未来を担う生徒の育成」～考え、議論する道德の実現～

〈様式2〉埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

6月7日	第3回校内研修会 ○研究部会 *授業実践部…指導案検討 *環境地域連携部…掲示物作成
6月18日	第4回校内研修会 ◎指導者による講話 指導者：特別支援教育推進専門員 黒須 文夫 氏 テーマ：「小中学校の巡回から見えてきたこと、先生方に期待すること」
7月1日	学校支援訪問・第5回校内研修会（*小中連携） 2年A組：「父の一言」（明日への扉2 学研） 指導者：埼玉県教育局北部教育事務所 島崎 春美 指導主事
7月24日	令和6年度小中学校教育課程北部地区研究協議会 特別の教科道徳実践発表
8月26日	第6回校内研修会 ○研究部会 *授業実践部…指導案検討 *環境地域連携部…アンケート研究分析
9月9日	秩父市教育委員会・北部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当学校訪問 指導者：埼玉県教育局北部教育事務所 森田 欣也 指導主事 同 島崎 春美 指導主事
8月～10月	指導案検討会 指導者：埼玉県教育局北部教育事務所 森田 欣也 指導主事 同 島崎 春美 指導主事 秩父市教育委員会教育研究所 佐々島忠重 所長
10月16日	北部地区道徳教育研究協議会小中学校合同研修会研究概要発表
11月20日	埼玉県道徳教育研究推進モデル校研究発表会 1年A組：「伝統を伝説に」（明日への扉1 学研） 2年A組：「二人の弟子」（私たちの道徳 中学校 文部科学省） 3年A組：「縦糸と横糸 一秩父銘仙を受け継ぐ」（彩の国の道徳中学校『自分を見つめて』） 指導者：埼玉県教育局義務教育指導課 芳賀 一行 指導主事 埼玉県教育局北部教育事務所 森田 欣也 指導主事 同 島崎 春美 指導主事 秩父市教育委員会教育研究所 佐々島忠重 所長 講演会：「これからの未来を担う『特別の教科 道徳』の充実に向けて」 十文字学園女子大学教育人文学部児童教育学科 浅見 哲也 教授
12月11日	くまがやピンクリボンの会教育講演会「生命の授業」（*小中連携）
1月15日	令和6年度道徳教育パワーアップ研究協議会 道徳教育研究推進モデル校の発表
2月	第7回校内研修会 研究のまとめ（各部会の成果と課題、次年度の計画）

4 研究の内容

(1) 授業実践部の取組

①授業づくりのための校内研修

- ・校内研修会の開催
- ・指導者による授業見学、講義の実施
- ・各種研修会への参加



道徳科の『授業づくり』に視点を置いた講義を複数の指導者の先生方にご指導いただいた。経験年数の浅い教職員も多く、道徳科の授業を進めるにあたり、基礎・基本になる部分を重点的に学ぶことができた。また、研修会等への参加を通じて、本校の実践を広めたり、他校での実践を学んだりする機会を多く持つことができた。

〈様式2〉埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

②授業実践・研究授業の実施

- ・全職員一人一回の公開授業
- ・学年ローテーション授業、T T 授業
- ・授業相互見学
- ・全学年道徳授業参観の実施



7月1日学校支援訪問

全学年で火曜日の6時間目を道徳科の時間として、学年内のローテーション授業やT T 授業、相互参観が行いやすいように設定した。他の教員の様々な指導方法を知ることができ、教員同士の指導法の伝達や授業力の向上につながった。保護者が来校する授業参観では、全クラス道徳科の授業公開をし、本校の研究についてや家庭用「彩の国の道徳」にもふれて、啓発の機会を設けた。

③授業実践部会の開催

- ・指導案、授業検討会の実施
- ・「彩の国の道徳」の活用、
「私たちの道徳」の活用

研究授業に向けての指導案



指導案検討会



秩父銘仙講話

検討を十分に行い、学習指導要領や県中学校教育課程指導・評価資料や教育課程編成要領を活用して指導案の形式や書き方、授業改善の方向性について共通理解を深めた。また、道徳科の授業の中でICTを活用した生徒の実態把握、心情メーターなどの思考ツールを用いて、自分の考えを表現し、議論するきっかけを作ることができた。

また、授業参観や研究発表会の公開授業において、「彩の国の道徳」や「私たちの道徳」を活用した授業を公開した。特に秩父銘仙を題材にし

た内容を扱うにあたり、美術科の授業ともタイアップし、秩父銘仙のデザイナーに講話をいただく機会を設けることができ、より身近な内容として捉えることに繋がった。



心情メーター



グループでの話し合い

(2) 環境地域連携部の取組

①地域とともに推進する特色ある教育活動

秩父の良さを実感できる体験活動の推進として、「伝統芸能学習」、「農業体験」、「くまがやピンクリボンの会」による「生命の授業」教育講演会などを実施した。本校の一番の特色であり、感動や喜びなどの成功体験を経験するとともに、地域の方の温かさや繋がりを実感できる場とすることができた。



農業体験



伝統芸能発表会

〈様式2〉埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

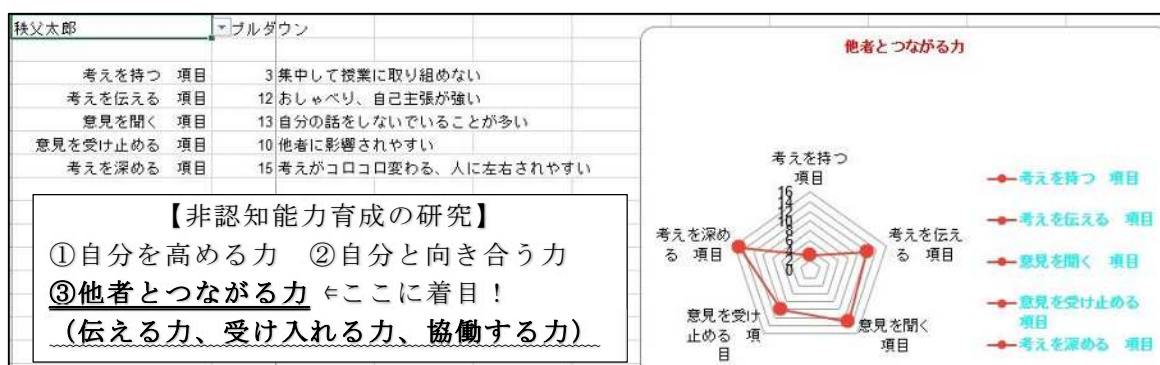
②道徳コーナーの設置

生徒が毎日目にしやすい昇降口付近に「道徳コーナー」を設置し、他者の良いところを認め合う「GOODカード」、道徳科の授業に関連した掲示物、各行事に作成した掲示物を掲示した。生徒の思いや頑張りをたたえる内容で、大変明るく温かみがあり、生徒の活躍や成長が表れている。



③アンケートの実施と分析

今年度の埼玉県学力学習状況調査質問紙調査の中から、「規律ある態度(12項目)」達成目標や研究内容の関連項目(自分自身に関する項目、考え議論する項目)について、5月と10月に調査を行った。また、非認知能力育成に視点をあて、アンケートや授業実践から、生徒の意識の変容を把握することとした。



5 研究の成果と課題

- (1) 成果【令和6年度埼玉県学力学習状況調査質問紙調査より関連項目を一部抜粋】
(肯定的回答数値の変容)

項 目		5月実施	10月実施	伸び
○規律ある態度	⑩話を聞き自分の考えを発表する	71%	81%	10%↑
○自分自身についての項目	①自分には良いところがある	66.9%	72%	5.1%↑
	②住んでいる地域に関心を持っている	59.1%	61.4%	2.3%↑
○考え、議論する項目	①意見を出し合って課題を解決する	67.1%	89.4%	22.3%↑
	②話し合いを通して自分の考えを持つ	63.8%	86.7%	22.9%↑
	③話し合いから自分の考えを深める	60.3%	88%	27.7%↑

道徳教育の要である道徳科の授業の量的確保、質的転換によって、教職員の授業に対する意識の向上や授業力向上に繋がり、本校生徒の課題であった「多様性尊重、自己肯定感、自己表現力」がアンケート数値からも高められたことがわかった。道徳科をはじめ生活の中での道徳教育が少なからず実を結んだ結果といえる。

(2) 課題

学校と地域が一丸となって得ることができた研究成果を根付かせ、組織的な道徳科の授業の形式を継続すること、地域人材の確保や家庭との連携が今後の課題である。「心豊かに地域の未来を担う生徒の育成」に引き続き努めていきたい。